



アジア の 古代文字

解説!

(2023)

2023年
11月6日(月) - 11月26日(日)

土日祝休場 (11月23日、11月25日、11月26日の外語祭期間中は開場)

開場時間: 13:00-17:00

※期間中、午後のみ開催となりますのでご注意ください。

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
1階資料展示室

入場無料

※ただし、イベント②に参加ご希望の方は要事前登録・保険加入

展示企画イベント①「展示品解説ツアー」

11月23日(木・祝) 13:00-14:00

展示企画イベント②「甲骨文字を彫ってみよう!」

11月23日(木・祝) 14:00-15:00

実物の牛骨に彫刻刀などで、「甲骨文字」を数文字刻んでいただけます。
事前登録はこちらから▶



※事前申込制・人数限定(小学生以下のお子様には保護者同伴)
参加は無料。当日保険料のみ200円を頂きます。

※ゴーグル・手袋着用の上、安全に十分配慮して実施しますが、保険加入に同意される方のみご参加いただけます。なお実物の牛骨は、大人が1文字彫るのも大変な硬さです。小学生以下の参加者には、粘土など代替素材に彫っていただく可能性もございます。



主催: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研) 企画: AA研基幹研究「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録: アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して」(DDDLing)

ごあいさつ

「古代エジプト文字とロゼッタストーン」「楔形文字とペシトゥーン碑文」「ミャンマーの各種古代文字とミヤゼディー(ラジャクマール)碑文」…断片的な文字情報から古代の言語の姿を明らかにするという研究は、「古代文字の解読」として、広く知られる言語学的成果です。本邦では、研究者によって多くの「解読」が試みられ、一般向けの書籍も数多く出版されており、関心の高さがうかがえます。

しかし、「言語の研究」と「文字(そのもの)の研究」は本来分けられるものです。言語の研究とはまた別に、文字や字形に関する研究も進展しています。こうした研究も各地の研究者によって進められています。それぞれの専門家による、最新の研究紹介を行う場として、本展示が企画されました。

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所既形成拠点GICAS(アジア書字コーパス拠点)は、アジアの貴重な文献・書籍の収集に努めるだけでなく、文字そのものに関わる研究も継続してきました。本企画展



●Champlollion
「ヒエログリフの体系概説」(1824年初版)

「解読!アジアの古代文字(2023)」では、GICAS、アジア・アフリカ言語文化研究所文献資料室などが所蔵する、アジアの各種文字資料、古代文字とその解読に寄与した書物などを紹介します。さまざまな言語・文字に溢れたアジア世界、そして知的好奇心を刺激する、文字研究の一端を知っていただければ幸いです。

2023年11月
アジア・アフリカ言語文化研究所 所長 近藤 信彰
既形成拠点GICAS 代表 荒川 慎太郎



●「西夏国書字典音切」



●ナシ族コバ文字経典

※本展示は、新型コロナウイルスの状況を鑑み、当初予定の会期・規模を縮小し、感染症対策を講じて開催した2021年度の展示を、本来予定していた状態で開催するものです。



解読! アジアの古代文字 (2023)

2023年
11月6日(月) - 11月26日(日) 入場無料

土日祝休場 (11月23日、11月25日、11月26日の外語祭期間中は開場)

開場時間: 13:00-17:00

※期間中、午後のみ開催となりますのでご注意ください。

【会場】
東京都府中市朝日町 3-11-1
東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
1階資料展示室

【問い合わせ先】
東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
TEL: 042-330-5600
FAX: 042-330-5610

【イベント詳細ページ】
https://www.tufs.ac.jp/event/2023/231106_1.html

